

4月 園だより

令和6年4月1日
佛教大学附属こども園



「仏教保育 4月のねらい」
合掌聞法

「今日は何したの？どう思ったの？」



園長 佐藤和順

ご入園・ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

4月は出会いの月です。園長の佐藤和順（さとう かずゆき）です。佛教大学教育学部幼児教育学科に所属し、教師や保育者を志す学生とともに学修・研究をしております。佛教大学附属こども園は、48年の歴史を有する幼稚園を基盤に保育のニーズの変化に対応すること及び乳児期からの一貫した保育を目指し、昨年度スタートしました。これまでの経験・実績を踏まえ、子どもと共に成長する園でありたいと願っています。人格形成の上でもっとも大切な乳幼児期を、当園で一緒に過ごせることをとてもうれしく思います。

こども園は、入園した園児には、初めて経験する集団生活の「場」になります。大好きな家族と離れての生活。園児、保護者にとっても期待よりも不安が大きいことでしょう。また、進級した園児もひとつ学年が上がることにワクワクする半面、新しいクラスの友達や先生と仲良くできるのかドキドキしていることでしょう。期待や不安が入り混じる4月ですが、園児には集団生活の楽しさ、友達と遊ぶことの楽しさをしっかりと伝えたいと思います。

さて園だよりの「園長のことば」では、園児や保護者の皆さまに伝えておきたいことや考えてほしいことを、その月の保育目標にそって簡単にご紹介いたします。家庭での子育ての一助としていただければ幸いです。

今月の保育目標は「合掌聞法（がっしょうもんぼう）入園・進級を喜び園生活に親しもう」です。本園は仏教保育を基盤としています。「合掌」とは、両方の手を合わせるという動作で、自分は争わないという姿を表しています。「聞法」とは、道理を知る、相手の話をよく聞くという意味です。人の話を素直に聞くことは、社会性を養う第一歩となります。園児に「合掌聞法」を育てるためには、私たち大人が良いお手本となり、子どもの話にしっかり耳を傾けることが大切です。新しいクラスのこと、友だちのこと、先生のこと、園での経験など、園児は帰ってからたくさんの話をすることでしょう。「今日は何したの？」と「合掌聞法」の心でしっかり聞いてあげてください。そして「どう思ったの？」と尋ねてください。附属こども園では、自分で考えることを大切にしています。育ちによってそのレベルは異なりますが、考えることの練習にもなりますし、自分の気持ちを整理することにもなります。教職員一同も「合掌聞法」の心で園児に接し、楽しい園生活を送ることができるよう努力してまいります。園からの情報にもしっかりと耳を傾けてください。

1年間、よろしく願いいたします。